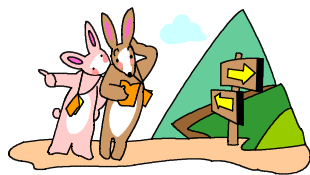




2年生諸君！ こんにちは



高校生活も折り返し地点を過ぎ、いよいよ後半戦に突入です。遅々として進まない学年主任面談ですが、焦ることを嫌う気楽な学年主任ですので、まだ順番が回ってきていない人、気長に待つて頂くことをお願いいたします。

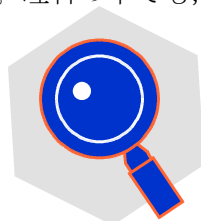
ところで、その面談で最近やたらと「将来、何をやりたいのか自分でもわからなくて悩んでいます。」という生徒が多くなってきました。悩みの内容はもちろん千差万別ですが、大きく分けて3種類のような気がします。

一つは、去年学科選択で考え思い描いた高校2年生としての生活がうまくいかない状態に陥り、不安になっているタイプ。でも、よくよく話を聞いてみると、ちょっと躓いたことをずっと引きずって自分はダメだと思ひこんでいるような気がします。少し厳しい言葉で言えば、少しの努力しかしていないのに、自分で勝手に烙印を押してそれ以上苦しまなくてもいいように逃げている。継続は力なり、とよく言いますが、継続することは本当に苦しいことでしょう。継続できる人とそうでない人の違いは、根性があるとかないとか、意識が高いとかそうでないとか、そんな難しいことではなく、日々小さなことでも喜びを感じることができかどうかなんじゃないかなと思うのです。そしてもう一つだけ付け足せば、その小さな喜びを明日はもうちょっとだけ増やしたいなと思って行動できるかどうか。もちろん、志高く、着実に日々努力を重ね前進できる人はものすごく高いところまでいくでしょう。でもそんな人はほんの一握り。自分にはそんなことは無理だと思う人が圧倒的多数ですよ。その人達の中で結果的にゴールできるかギブアップするかは、「嬉しい」と感じられる心の持ちようなんじゃないかなと思います。私は緑高生を誇りに思っています。みんな必ず良いところを持っている。なのに、暗い表情で面談室に入ってきた生徒に、私が「君はこういうところが良いよね」と言っても「いいえ、そんなんじゃないんです」とすべて否定されることもしばしば。教員生活20数年間の経験から素直な私の意見を言っているのですが、受け入れてもらえないのは悲しいし、もったいないなあと思うつくづく思います。君達が思い描いている理想の状態がものすごく高いのかも知れませんが、100以外は0でしかないと感じてしまう日々では苦しいですね。

もう一つのタイプは数多くはいませんが、高校生活を必死で頑張っていて、そのために進路を調べ考える余裕がない生徒。そういう君達は焦る必要はありません。日々の頑張りが君達の人生にプラスとなって現れる日が必ず来ますし、日々の頑張りの途中には多くの人との出会いがあり人生のヒントとなるアドバイスがもらえるのです。それらの中に新たな夢との出会いが出てくる場合もあるでしょう。どんなことでもがむしゃらに突き進むことができている人は、着実に階段を上がっているのです。一つだけ注意することと言えば、緑高生であることを忘れずにがむしゃらに進め！ということ。やりたいことだけしかやらず、「勉強は無理！」なんてことを正論と思っている人は思い上がりもいいところですね。勉強は君達にとって義務です。「努力しなくても何とかなる」ほど天才的な能力を持っている人はいません。自分の目標に向かって勉強との両立を試行錯誤しながら頑張ること自体が、君の目標実現への架け橋になると私は思っています。大体、勉強から逃げている人は、大事な場面で踏ん張れないことが多いです。夢を実現させたいなら、勉強に対する「逃げ」をなくしなさい。

最後のタイプは、風船タイプ。空中をゆらゆら浮いていて日々風任せ。「何をやりたいのかわかりません」と言っている割には何も考えようとはしていないタイプです。職業や大学を調べようともしていない。実際のところ真剣に悩んでもいないようです。勉強もやる気なし、かといって何かに打ち込んでいるわけでもない。何とかなるだろうっていう甘さがただよっています。こういう生徒とはたくさん話をしたいのですが、どうやら煙たがられているようです。このまま放っておいて若いうちに痛い思いをさせたほうがいいのか... 私の方が真剣に悩んでいます。

最後に、先週のNHK ニュースで放送されたトピックスを紹介します。
『大学で理系の学部で学んだ人たちは、文系の学部で学んだ人よりも年収が高く、中でも物理を得意とする人ほど、年収が高い傾向にあるという調査結果を京都大学などの研究者のグループがまとめました。この調査は、日本の学生の理数離れについて研究している京都大学の西村和雄特任教授らの研究グループが行ったもので、ことし2月にインターネットの調査によって、およそ1万人から回答を得ました。それによりますと、40代に今の年収を尋ねたところ、理系出身者の平均が637万円、文系出身者が510万円で、理系の方が120万円余り高くなっていました。さらに理系出身者の年収を、「得意」だった理科の科目別に調べたところ、最も高かったのは物理で681万円、次いで化学が620万円、生物が549万円で、同じ理系でも物理と生物の差は130万円余りありました。理科の中でも、数学の力が必要な物理は、受験で敬遠されるケースが増えていて、研究グループでは「物理の力がものづくりの現場からニーズが高いことは、年収からも明らかだが、理数離れで、担い手が減っていることは大きな問題だ」としています。(NHK ニュースサイトより)』



さあどう思いましたか。私はどうしてNHKがこういう形でニュースにしたのだろうと疑問に思いました。もっともっと説明が必要で、それなしでは危険な情報。ぜひ皆さんの意見を伺いたいですね。お待ちしております。私の意見は次回に。

読み終わったら、保護者の方にもお見せしましょう。

